

# HARLEM

## SPIT'EM OUT! "it's absolutely raw"

01  
Monthly News Paper  
January, 2004  
Volume 52 Issue 77

feature interview

## DJ MURO

約一年ぶりに本紙巻頭インタビューへ登場のMURO。キングが通って来た道を示してくれる“BACK TO THE OLD SCHOOL”への熱い思い入れなど、貴重なインタビューとなった。2004年のスタートを飾るのにふさわしいキングの言葉を一言一句逃さず心して読み、1/11(日)の“BACK TO THE OLD SCHOOL”に備えよう!

■2003年を振り返ってみて。どんな1年でしたか?  
色々な意味で変動な年だった1年ではあったけど、音楽だけじゃなくて、自分の洋服のブランドも含めて、凄い大変動だと思いました。海外も今まで通り行ってただやるんじゃないで、レーベルから『MIX出してよ』とか、そういう話が来たり、ちゃんと聴いてくれている人達がいるんだなって。HARLEMでも“BACK TO THE OLD SCHOOL”という枠を設けてもらったり、そういう機会が増えてDJもやりがいがあった年ですね。

■今後も海外でのプレイの予定はありますか?  
毎年マイアミには絶対に行きたいので、多分2004年はもっと海外が多くなる感じですね。『日本人は金持ちだ』みたいな扱いをされているだけじゃなくて、金だけじゃなくて、ちゃんと実力のあるヤツがいっぱいいるっていうのを証明したいし。海外では日本の政府はダメだけど、DJは凄いて言わせたいですね。

■海外ではどのようなパーティーが多いのですか?  
そのパーティーにもよるけど、LAでこの間3、4箇所やった時は、最後の日はホントに僕メインのDJの日で、フライヤーも、一応STONES THROWというレーベルの冠はあったんですけど、僕の日みたいな感じで、何でも好きなものをかけていいみたいにしてきて、客層も凄く幅広くて、凄い面白かったし、やりがいがありましたね。挑戦しがいがあったというか。

■“BACK TO THE OLD SCHOOL”は前回のインタビューでの希望が形になったイベントですが、タイトルもMUROさん自身で決めたりと、このイベントに対する思い入れがあったら教えてください。またMUROさん自身にとってのOLD SCHOOLとは何ですか?

純粋に僕が今まで通ってきた道が、僕の中ではOLD SCHOOLになっていくんですけど、僕が10代だったり20歳前後の頃に、普通にフロアで踊ったりしている時は、『もう何にもいらぬや』って幸せいっぱいになれるあの感覚っていうのを味わわせたいというか、伝えたいっていうのもあって、その頃かかってた自分が幸せになれた音源をずっとかけていたり。だからOLD SCHOOLって枠だけじゃなくて、音楽好きが集まれるイベントにしたいと思って、これから先はもうちょっと幅を広げていきたいですね。OLD SCHOOLってRAPだけとは限らないだろうし、もちろんその素材になってるエレクトロだったりロックだったりっていうのもOLD SCHOOLだと思う。

■実際過去に2回開催されてますが、やってみて手応えはありますか?  
凄く楽しいですね。通常の帯でやっている“NO DOUBT”とはまた全然感覚が違うのでホントに楽しいです。あっちにそれともこっちにそれともアリなんで、凄くやりがいがありますね。『意外にこんなのが盛り上がるんだ、じゃあこの辺の年代の人が今日は多いのかな』とか。何か面白いですね。

■“NO DOUBT”との差別化で特に意識している事はありますか?  
土曜日は土曜日の選曲を楽しむに来てくれているお客さんが多いと思うので、“NO DOUBT”の雰囲気壊さないように。TAIKI君とか帯で入っているDJの雰囲気を壊さないような選曲は心がけていますね。その中に自分のスパイスを加えて、それがクイックミックスだったりとか、ちょっとOLD SCHOOLっぽいネタを混ぜたりとかするんですよ。

うけど。“BACK TO THE OLD SCHOOL”はプレイを5時間くらいやるじゃないですか。レコード準備も同じくらい掛かるんですよ。昔のレコードを出したりとかもするから。それも凄く楽しいし、やりがいのあるパーティーですね。

■長時間プレイは他にもやる機会がありますか?  
airくらいですね、極端に長いっていうのは。でもairの場合はそこまでRAPの比率も多くないし、だからHARLEMの場合は、純粋に自分が通ってきた所というか、それでまたレスポンスがあるから楽しいですね。ホントにタイトル通り昔に自分も戻れるし、初心に帰れるイベントだと思いますね。だから続けていけるのであれば続けていきたいと思っています。

■“BACK TO THE OLD SCHOOL”はお客さんはもちろん、スタッフの間でも反響が凄いイベントですが、MUROさんにとって理想的のパーティー像は?  
やっぱりお酒が進むパーティーでしょうね。みんなが楽しくなれる、お客さんとの一体化出来るパーティーというのが一番自分の理想なので、やっている方も踊っている方も楽しかったなっていうパーティーが一番理想ですね。しかもスタッフからそういう声があるのはなおさら理想ですね。また次も絶対来ようという気になるパーティーっていうのは理想ですね。

■今後やりたいと思っている事は?  
海外の人にもっと解らせたかったですね、日本にも実力のある人がいっぱいいるって事。お金で海外から呼ぶだけじゃなくて、逆に呼んでもらえるぐらいのレベルの日本人がいっぱいいるので。その辺をアピール出来たらと思います。服でもそんなんですけど、ベースを作るのが好きなんです。意識したいものはないけど、誰もやっていない事をやるのが好きなんです。音作りにもリリックにしてもそうです。まあ新たな土台作りが出来ればと思います。

■若い世代への土台作りという意味も含めてですか?  
そうですね。みんな歳を取って、今踊っている子達もDJを始めたりする訳じゃないですか、5年後6年後とかにも。そういう子がこういうパーティーをやってくれたりしたらまた面白いですね。

■洋服の最近の活動は?  
自分のINCREDIBLEというレーベルがあるんですけど、そのウェアラインを作って、今回その展示会をやったんですけど、そっちもかなり幅広い感じで自分の思う通りに出来ていて、まだまだ変わると思うので、そっちもちょっと期待してもらいたいですね。逆に服から音楽の方に向けての狙ってて、コンセプトは[音が聞こえてくるような服]なので。作っている時も聴いている時も楽しくなる服を目指しています。そこからどどん音楽にのめり込んでくれる人が増えたら良いですね。若い子はそういう洋服から入る人が多いし。

■地方営業は?  
地方は結構行ってますよ。この前は神戸に行ったんですけど、神戸は面白かったですね。いきなり神戸でレギュラーを決められちゃって。俺も凄く気に入っちゃったから全然オッケーなんですけどね。神戸はコアなDJがいるけど、アーティストが出てなかったりするんですよ。裏方で仕掛けている人が多くて。でも実際イベントをやってみると、ラップをキックしに来たりする若い子とか、



横に来て『〇〇って言います、聴いて下さい』とか。MIX TAPEの数は一番多かったですね、地方行った中では。そういう地方にも負けてられないなと思います。もっと洗得的な音楽、最近渋谷、東京とか言ってるけど、このままじゃ地方に抜かれそうなので、新たな何かを見つけないなと思ってます。地方も土台が確実に上がってきてますからね。やっぱりM.O.S.A.D.とかLUNCH TIME SPEAXとか、地元を大事にして出てこないじゃないですか、東京に。ああいう奴らがいっぱい増えていっているから、凄く面白いですね、地方に行くと。日本を盛り上げていく意味でも凄く良いなと。

■最近の中での自分にとってのターニングポイントは?  
多分一昨年の“Sweet Baaad A\*s Encounter”という自分のアルバムを出した時に、若い子達とコラボレーションをやってみようと思っちゃって、久しぶりに若い子達の上達ぶりを見たりとか。あのアルバムは衝撃でしたね。あのアルバムがターニングポイントになった気がしますね、自分の中で。

■若い世代で気になる人はいますか?  
今若い子面白いからね。この前参加してもらったTOKONA-Xも頑張っているし、これから凄く楽しみだし、妄走族も楽しみだし、雷もリリースがあるし、DABOもアルバム出したし、楽しみですね。多分盛り上がると思います、年末年始は。

■2004年の予定は?  
レコード会社に移ってBEST盤を出すんですけど、クラッシュポッセからのものをコンパイルして、絞ったんですけど、曲数が多すぎて絞り切れなかったんで、とりあえずそれは2月25日に出します。その中で新曲をKRUSHに1曲やってみようと思ったけど、それはこの前の“Sweet Baaad A\*s Encounter”の逆の立場なのかなっていうか、またショックでしたね。やっぱり俺はお前の子供だつて(笑)。感動しました、ホントに。凄く良いですよ、次から次へと時代が変わって行って、時代が変わっても一番上のヤツはまだやっているって、理想ですね。KRUSHもガンガンメインストリーム系のプロデューサーもやって欲しいなと思います。俺の中では一番のスーパープロデューサーだから。ソロの方はソロで、このBEST盤が出た後の自分の変わりっぷりが楽しみなんですけど、自分の中のまた違うターニングポイントが、久しぶりにKRUSHと出会って、またこの曲終わって変わると

思うし、2004年は色々な意味で楽しみです。

■オフの過ごし方は?  
何もしていない時はないですよ。ここ何年も忙しさに慣れちゃっているから。落ち着かないんですよ。今日も展示会の最終日だったんですけど、会場内をウロウロしちゃったり。何か落ち着かないんですよ、『ゆっくり過ごしてみたい』っていうのがなくて、最近。

■そのお忙しい中でリラックス出来る時はいつですか?  
移動の時ですかね、営業行く時とか。新幹線とか飛行機の中は自分の時間なので、普段聴かないような音楽とかCDも聴いたりするし。最近ではドラムブレイクが目覚めて、どんなジャンルでももう一回ドラムブレイクで聴き直して、NEPTUNESもそうだし、やっぱり打ち込みからサンプリングに最近戻ってきたりもしてるし、この間WATARAIも久々にお店に来て、何か良いドラムある? って1クレイズくらい持っていってたりして、それがDABOの作品に出てたりしてたので、凄く良いですね。HIP HOPですね、最近。楽しいですよ。

■読者にメッセージを。  
“BACK TO THE OLD SCHOOL”は、まだまだ感動を与え切れていない部分があるから、来年はもっと曲の幅も広げるし、客層の幅も広げて、みんながみんな楽しめるようなパーティーにしたいと思っています。レギュラーに関して、もっと音楽好きが集まれるような、時間帯とか曲でフロアの浮き沈みが激しくなっちゃうのではなくて、常にフロアが満員の状態を保たせたいっていうのと、もうちょっと日本のラップを定着させたいっていうのがありますね。良く聴かせる流れっていうのがあると思うんですね。その辺は試行錯誤して頑張っていければ。

■最後に一言  
HARLEMに関しては“BACK TO THE OLD SCHOOL”が自分の日みたいイベントなので、とにかくそれに足を運んでもらえたらって感じですよ。あとはもっと日本語のラップを聞きなさい、リリックもちゃんと憶えるよっていう感じですかね(笑)。!!!

●BEST盤「BACK II BACK」2/25 ON SALE!